

今になって気づいたこと

智辯学園奈良カレッジ中学部 3年 別所 優薫

私には一人暮らしをしている祖母がいる。その祖母とある日突然連絡がとれなくなった。

祖母は今年で八十歳になる。祖父が四年前に脳梗塞で倒れ、施設に入ってから、祖母は一人暮らしになってしまった。祖母は今もパートを続けており、車で勤務先へ行ったり、私の家にもときどき来てくれたりする。私の兄が祖母のことを心配して、毎日朝六時半に祖母とラインで連絡を取り合っている。いつもは祖母から「おはよう、起きてる？」とラインがきて、兄は朝ご飯を食べながら「おはよう」と返信している。これが日常風景だった。

その日は、四月下旬の日曜日で、兄の野球の練習試合があり、私は母と一緒に試合を見に行った。朝起きて試合会場に行く時は、兄は何も言っていなかった。ところが、試合後、兄が車に乗ってしばらくすると、

「おばあちゃんから返信も既読もつかない。」と私に小声で言ってきた。私は急いで祖母に電話をした。しかし祖母は出なかった。車を運転していた母から家の固定電話にかけるように言われて、祖母の家に電話をしたが、祖母はでなかった。兄は心配しながらも次の用事に向かうため、車を降りてしまった。

私は頭が真っ白になった。祖母の身に何かあったに違いない。そう考えると涙が止まらなくなってしまった。母は

「車の運転中かもしれないから少し時間をおいてもう一度電話してみて」と言った。私は冷静に車を運転している母に少し腹が立ってしまった。十分ほど時間をおいてもう一度、家と祖母の携帯に電話したが、やはりどちらにも出なかった。

普段なら私から電話があったと気づけば祖母は必ずすぐに折り返してくれる。その祖母から連絡がないということは、電話ができない状況であるということだ。横にいる母は変わらず運転している。私は「なんでそんなに冷静でいられるの。心配じゃないの。」

と怒鳴った。母は

「心配だから一刻も早く向かおうと必死に運転してるの。」

と答えた。しかし、祖母の家まで約一時間かかる。祖父がお風呂で倒れた日のことが頭をよぎった。祖母は倒れているのか、今から行っても助かるのか、今どこにいるのか色々なことが頭に浮かんできた。

母と話し合って警察に連絡することになった。電話をしてみると、警察官が先に祖母の家に向かってくれることになった。警察からの連絡を待ちながら、また車を走らせた。

その時、私のスマホが鳴った。画面をみると祖母からの電話だった。話を聞くと、パートの介護ヘルパーの勉強会に早朝から出席していたらしい。そして、昨日も兄の学校がなかったのも、兄からの返信が昼過ぎになっていたので今日は連絡しなかったという。私も母もホッと胸をなでおろし、すぐにもう一度警察に電話して、祖母と連絡がとれたとお礼を言った。今回、祖母に何もなくてよかったが、いつ祖母の身に何が起こるかわからない。もっと祖母と連絡をとろう、大切にしようと思った。

私たちの日常生活は、一瞬のでき事で大きく変わってしまう。後悔しても取り戻すことはできない。後悔なく過ごすためには「今を大切に」「周りの人を大切に」「感謝の気持ちを忘れずに」この三つのことを意識することだと私は気づいた。